公認会計士「研修出向制度」体験者リポート

vol. 7　取材・文／髙橋光二　撮影／笹木 淳

新日本有限責任監査法人が2010年にスタートさせた、一般事業会社への会計士「研修出向制度」。本制度を活用し、自己成長に励む公認会計士たちのリアル・リポートをお届けする。

新業績評価制度の導入で グループ全体の収益構造の安定化に貢献したい！

エア・ウォーター株式会社 経営管理部 BU推進グループ
廣西 聡●37歳

事業会社の決算業務に携わってみたいと応募

——まず、略歴からお教えください。

廣西　大学卒業後、日本生命に入社し、大阪本店で法人顧客向け情報誌の作成などに携わりました。そこで企業業績をディスクローズする業務を手がけ、会計に興味を持ったのです。そして、経理部で決算に携わる仕事をしたいと希望しましたが、4年目に営業部門への異動の辞令が……。そこで、一念発起し、会社を退職。公認会計士となることを決めたのです。札幌の実家に戻り、2年間専門学校に通って第二次試験を受験し、1回で合格しました。

——新日本監査法人では、どのような業務を担当していたのでしょうか？

廣西　上場企業や金融機関、大学（国立・私立）、社団法人、労働組合など、様々な組織の会計監査に携わることができました。それぞれに根拠法や会計基準が定められているので、求められる決算書類の表示形式や会計処理が異なります。そういった意味で、幅広い監査業務を経験することができました。

——出向制度に応募した動機とは？

廣西　新日本に入ってスタッフとして3年、公認会計士となって3年、その間に主査も担当し、監査法人での業務はひととおり経験できたと感じていました。新しいことに挑戦したいと考えていたタイミングで、出向制度の募集を知ったので手を挙げました。もともと、事業会社の決算をしてみたかったことと、出向先は基本的に大手企業だとも聞いたので、なおさら魅力を感じましたね。

——出向先がエア・ウォーターと聞いて、どう感じましたか？

廣西　当社の登記上の本店所在地は私の生まれ故郷の札幌で、コーポレート本社は日本生命勤務時代に赴任していた大阪。その大阪で仕事をすることになり、これも何かの縁と思いました。

自分でなければだめと言ってもらえる会計士に

——エア・ウォーターではどのような業務を担当されているのでしょうか？

廣西　目下、グループ会社各社に標準原価を利用した新しい業績評価制度（BU制度）を導入しているのですが、その推進チームのメンバーとして各社への指導を任せていただいています。この制度の導入により、経営管理の徹底によるコスト削減と生産性向上を図り、グループ全体の収益力を高めるという狙いがあります。

——その仕事にどのようなやりがいを感じていますか？

廣西　グループの中期経営計画で、2020年までに連結売上高1兆円を達成するという目標を掲げています。グループ全体が一丸となって目標を追求していくなか、新業績評価制度は、生産性を高め、収益構造を安定化させる大きな役割の一つと位置付けられています。その推進役として先頭に立つわけですから、非常に重要な任務を担わせてもらっていると、気を引き締める毎日です。

——事業会社での仕事と、監査法人での仕事の違いとは？

廣西　監査法人で業務上相対するのは、経理担当者がほとんどで、「会計の土俵」の上で、共通の言語を用いた、意思疎通が図りやすい環境でした。一方、今、当社で相対するのは、工場長や営業所長、実務担当者と実にバラエティに富んでおり、「会計」以外の言語が飛び交っているため、「会計」以外の内容を理解し、会話をすることが大変重要です。最初の1年間は、まずエア・ウォーターの業務内容・業務評価・予算管理・システムを中心に勉強しました。

エア・ウォーターの社員になってみて一番に感じたのは、傍から見るとこの不景気な経済状況のなか、安定した業績を残しているにもかかわらず、中期計画達成に向けて社員全員が緊張感を持って必死に仕事に取り組んでいることです。その姿勢が会社の成長にもつながっているのだと思います。

——公認会計士としての知識や経験は、どのように役立っていますか？

廣西　原価管理は公認会計士の業務領域ですから、比較的スムーズに担当業務に入れたと思っています。2年目、3年目は1年目で学んだことを生かして、さらに積極的に関与していきたいと思っています。

——残りの出向期間で、どんな要素を身につけたいと考えていますか？

廣西　まずは、業績評価や経営管理に関する必要な知識を習得しグループ会社に導入する責務を果たすことです。今年度は業績評価制度を10社導入しましたが、来年度はさらに30社に対して導入する予定です。そのうえで、せっかくの機会ですから、経理実務も経験できればと思っています。

——今後、どんな会計士を目指していきますか？

廣西　業績管理にかかわった経験を生かし、会計以外のことでもアドバイスができる能力を身につけ、「廣西でなければだめだ」と言ってもらえるような公認会計士になりたいですね。

——最後に、後進へのメッセージを。

廣西　今、自分自身が感じていることですが、監査法人の常識が事業会社で通じないことはたくさんあります。研修出向制度を活用して、一度、外に出ておくことは、顧客から求められる会計士になるための貴重な経験になると思います。

Satoshi Hironishi
Profile

1975年5月13日	北海道札幌市生まれ
1999年3月	北海道大学法学部卒業
1999年4月	日本生命保険相互会社入社
2004年11月	公認会計士第二次試験合格 新日本有限責任監査法人入所
2011年7月	エア・ウォーター株式会社へ出向

家族構成＝妻

出向受け入れ企業の声

外部の視点で客観的に問題点を指摘してもらうことを期待

エア・ウォーター株式会社
常務取締役 経営管理部・経理部・総務部・システム部担当
唐渡 有氏

当社は、大同ほくさん（株）と共同酸素（株）が、2000年に合併して誕生。当時の売上規模は2200億円程度だったが、11年度の決算では4700億円超に伸びている。しかし、この間、経済情勢、事業環境は大きく変化してきており、持続的な成長を続けるため、たゆまぬ努力を毎期積み重ねようやく目標をクリアしてきたのが実情だ。また、バラバラだった統合前の経理の仕組みやシステムはようやく一本化できた感があるが、次の10年の飛躍のために、さらに堅固なインフラ整備が不可欠で、財務会計と管理会計の一致もその一つ。戦力確保に悩んでいたところ、本出向制度を知りすぐにお願いすることを決めた。

廣西君には、即戦力として会計業務を担ってもらうことと、「井の中の蛙」になりがちな既存社員に対し、外部視点で客観的に問題点を指摘してもらうことを期待していた。十分にその要望に応え、成果を出してくれている。また、企業内部で従業員がいかに情熱を持って事業に取り組んでいるか、肌で感じ取っていただけると幸いである。